

ごあいさつ
人工知能の時代にこそ人の手のぬくもりを
～未来への懸け橋～



第54回日本赤十字社医学会総会
会長 宮田 完志
(名古屋第一赤十字病院 院長)

第54回日本赤十字社医学会総会は、中部ブロックの名古屋第一赤十字病院が担当させていただきます。会期は平成30年11月15日（木）、16日（金）の2日間、会場は名古屋国際会議場です。JR名古屋駅からはJR線または地下鉄金山駅が便利で、金山駅から会場へはシャトルバスを運行いたします。

メインテーマは『人工知能の時代にこそ人の手のぬくもりを ～未来への懸け橋～』といたしました。厳しい医療環境の中にあっても少しでも明るい、前向きなテーマにしたつもりです。昨今のAIの進歩はまさに日進月歩と言った状況です。いかに上手に活用し、より良い医療を提供できるかという大きな命題に直面しています。AIの飛躍的な発展は間違いなく、未来像は予想もつきかねる昨今です。しかし、いかなる時代にあっても、医療人の手のぬくもりは何物にも代えがたい医の心の具現です。そんな未来を楽しく予想し作り上げていきたい、と思いテーマに選びました。

特別講演Ⅰは、有名人のアンドロイド制作でも知られる大阪大学石黒浩教授にお願いし、「人間型ロボットと未来社会」についてお話し頂きます。石黒教授のお話はアンドロイド制作、活用に止まらず、人間の知恵、存在に対する深い考察、更に独自の哲学的解釈等、有益であると同時に考えさせられるご講演をいただけたらと思っております。

特別講演Ⅱは、名古屋市東山動物園の黒邊園長の、「東山動物園の歴史と魅力 ～開園80周年の歩みと動物園の未来～」と題した講演の予定です。名古屋市民の心の拠りどころの一つである動物園の歴史、戦時中の困難、ご苦勞を含めてお話下さって、動物園を見直して頂く機会にもなろうと考えております。アニメや絵本で有名な「ぞう列車がやってきた」で知られる名古屋市東山動物園を再認識いただける機会になるものと思います。

シンポジウムⅠでは「看護の未来。私の未来。」をテーマに取り上げ、シンポジウムⅡでは「人工知能と医療の将来」をテーマに当代切っただけの方々に担当していただいております。日本赤十字社医療事業推進本部長 富田博樹先生には「赤十字グループの現状とこれからの取り組み」の特別講話をお願いしております。ライブ講演は「医療機関で活躍する犬 ～介助犬と動物介在療法について～」を日本介助犬協会専務理事・医学博士の高柳友子先生がお話し下さることになっております。その

他、本社要望演題も前回は踏襲したもので充実した内容にしていきたい、と考えたプログラムにしたつもりです。発表は口頭よりもポスター形式の発表を増やして十分な討議と理解が得られることを目指しました。

日本赤十字社に関係のある全ての職種の方々のご参加が歓迎されているのみでなく、豊田看護大学の学生さんも学会への参加が授業の単位として認められることになり、無料で参加していただける手はずになっています。

学会初日の夕刻からのメインとなる医療人の集いは、同じ国際会議場で1000人規模の来場が可能な場所を用意いたしました。名古屋は全国的にもB級グルメで有名な土地ですが、各種の食材に加え濃尾平野を擁する土地が育んだ当地の名酒もふんだんに取り揃えています。

学会終了後は、徳川美術館、名古屋城を始めトヨタ博物館、鉄道記念館、東山動物園、国宝犬山城、博物館明治村等の観光施設にも是非足を延ばして頂けるよう企画しております。

職員一同、張り切って準備いたしました。多くの方に参集していただき実りの多い学会にしたいと願っています。名古屋でお会いできるのを楽しみにしております。